



強風大雨

要注意！

今回のトピックス



強風・大雨に警戒しましょう！

異常気象が珍しくない昨今、強風・大雨は季節問わずやってきます。特に外での作業が多いとされる清掃・設備・警備業務では、急に天候が悪化した時のため、非常時の対応方法も確認しておくことが大切です。過去に配信したハリナレ！の中から強風・大雨にまつわる情報をまとめましたので、再度確認してください。

労働安全衛生法では、強風と大雨を以下の定義としています。天気予報での目安としてください。

強風 … 10分間の平均風速が毎秒10メートル以上

大雨 … 1回の降水量が50ミリメートル以上



① 風にまつわるヒヤリハット ※「東京本部安全対策衛生だより」より抜粋

もっとも危ない 外回り

- ⚠ 広場の庭園灯を拭き上げていたときに突風でバランスを崩し転倒した
- ⚠ ごみ箱の袋を交換するときに突風で袋が飛ばされ咄嗟に追いかけたときに膝を痛めた
- ⚡ 突風で仮置きしたカートが吹き飛ばされ歩行者に接触しそうになった
- 通路に水まきしていたときに風向きが変わり水が通行人にかかり苦情になった

ほかにも注意したい 建物内・屋外・通勤中など

- ⚠ 空調機を点検しているとき風圧でVベルトが回転している状態で接触し巻き込まれた
- ⚠ 台風で吹き込んだ枝葉除去時に濡れた床面で足を滑らせ転倒した
- ⚠ 倉庫に用具をしまうときに突風で扉が勢いよく閉まり手首を挟んだ
- 雨風が強い中黒い傘で前方が見えずぶつかりそうになった
- 台風通過後に高架水槽の蓋が外れて床に落ちていた

② 台車使用時の注意

2021年8月に、清掃スタッフが目を離している間に強風に煽られた台車が車道まで移動し、走行していた軽自動車に衝突しました。ストッパーが無い車輪が車道側に向いていたことと、予想外の強風によって発生した事故事例です。

台車は固定し、積みすぎない ※強風に限らず常に気を付けましょう

- 台車を止める時は車輪が動かないように固定しましょう。
- 荷物は積み過ぎに注意し、運ぶ際は足元と前方に注意しましょう。
- 台車の角にクッション材を取り付けるなどして壁の破損を防止しましょう。

**LOCK**

③ ドア（扉）挟まれ事故

日頃から
気を付けよう！

2017年2月、清掃員が強風によって急に閉まった扉に手を挟む事故が発生しました。

発生状況：

清掃員がトイレSK内にバキュームを収納しようとしたところ両手で扉を開けた。
その際に急に風向きが変わった。強風の力で勢いよく扉が閉まったことにより、
右手首を扉に挟んだ。

対 策

事故の芽は未然に摘んでおきましょう

- ドアクローザーの強さを確認し、勢いよく扉が閉まる危険性を防ぎましょう。
- 換気のため常時開放の場合は、悪天候時は扉をドアストッパーで固定したり、一時的に閉めるなど、あらかじめルールを決めておきましょう。



④ 外回り業務の注意点

強風・大雨などの悪天候時での屋外作業は大変危険です。作業の中止または延期に越したことはありませんが、外に出る際は普段以上に周囲に注意を払ってください。

CAUTION



落下物・転倒物・墜落物に注意しましょう！

強風で物が飛んできたり、頭上から落ちてきたりする危険性があります。
ヘルメットを着用するなどして、頭を守りましょう。



両手を塞がず、動きやすい服装にしましょう！

強風に煽られて転倒しそうになったとき、両手が塞がっていると受け身がとれず大変危険です。
サンダルなどかかとの無い履き物や、滑りやすい長靴もNG。
歩きやすく動きやすく、転びにくい服装を意識しましょう。



天気予報を参考に、作業計画を立てましょう！

大雨・強風などの悪天候は事前に予測されていることがほとんどです。
天気予報は毎日チェックして、屋外作業を予定している日の悪天候
が予想される場合は、作業の前倒しや後倒しを検討しましょう。

※ 必要に応じてマネージャーやお客様に事前に相談しましょう



悪天候後は、必ず現場の状況を確認してから作業を再開してください。

目に見える故障・破損・汚れ以外にも、強風・大雨のあとは思わぬ危険で
いっぱいです。まずは十分な安全確認から始めましょう。

